

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部  
図書館 × 放課後図書倶楽部フリーペーパー

# リブリオン<sup>5</sup>

- ・新図書館のご案内
- ・ピブリオバトル
- ・選書ツアー報告
- ・放課後図書倶楽部  
部員募集

## 新図書館の

# ご案内

図書館が新校舎に移転して、いよいよ4月24日(月)  
9:00にオープンします!

**Silent Study Area**  
(サイレント・スタディ・エリア)  
静かに学習したい人のためのエリアです。  
窓の外の景色にも癒されます。

**さくら Cafe**  
デザイナーズチェアが設置され、くつろぎながら本や雑誌を見ることができる場所です。  
飲物の自販機(ドトールコーヒー)が設置され、館内で唯一食べ物(おにぎり・パン限定)が食べられます。

学習環境の整った空間!



## ♥ 選書ツアー報告 ♥

2月28日(火)に紀伊國屋書店新潟店にて、学生選書ツアーを開催いたしました。当日は放課後図書倶楽部の部員を含む3人の学生が参加し、約80冊の本を選びました。

学生が選んだ本については、新図書館で展示されています。貸出もできますので、学生が選んだ本をぜひ見に来てください。



選書ツアーについては年に2回開催しています。開催についてはHP等でお知らせします。学生皆さんの参加をお待ちしております。

## ♥ 放課後図書倶楽部 部員募集 ♥

本好きな学生が集まって、ゆったり楽しく活動しています!  
主な活動は、このフリーペーパー「リブリオン」の発行や、ピブリオバトルの運営 & 参加、選書ツアーの参加、一箱古本市の参加などです!  
興味がある方は気軽にご連絡ください(´▽`)

✉ → nsu.tosyo@gmail.com    🐦 → @bungeibuseiyo



## リブリオン No.5

【編集】 放課後図書倶楽部・図書館  
【発行】 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部図書館  
〒951-8121 新潟県新潟市中央区水通町1-5939  
TEL:025-266-9880 FAX:025-230-7749  
【発行日】 2017年4月4日

# ピブリオバトル

秋の読書週間に合わせて、「絵本」をテーマにした二つのピブリオバトルに参加してきました。

- 11月5日(土)に新潟県立図書館で開催された、新潟県主催の「子ども読書フェスティバル」というイベントのひとつ「絵本ピブリオバトル」、
- 11月13日(日)に朱鷺メッセで開催された「絵本ワールド」で参加した「絵本ピブリオバトル」にて紹介された絵本をご紹介します。

## 『ぼくおかさんのこと』酒井駒子文・絵(文溪堂)

短大人間総合学科 1年 笹川麻友

突然ですが、みなさんはお母さんのことが好きですか?この絵本の主人公うさぎの男の子は「キライ」とそっぽを向いてしまいます。一体なぜ?とページを捲ると「ねほすけだし、はやくというに自分はゆっくりしてるし、園のお迎えもおそいし...」と、幼い頃を思い出すとわかるわかる1とうなずいてしまうのばかり。「それからそれからそれから」はやくとは、結婚できないというしこの男の子は本当はお母さんのこと大好きなんです。思わずやりとりしてしまいます。男の子はついに「サヨナラ、おかあさん!」と部屋を飛び出してしまいます...がボールを忘れてすぐに戻ってきます。「ぼくとまたあえてうれい!」これは「もちろん!」と言わざるを得ません。

親子というのは難しいものです。なかなか素直に伝えられないのがみなさんにもあると思います。しかし、この絵本を読んだ時に子どもはみんなお母さんのことが好きなのだなぁと実感しました。また、この絵本は母親になってから読むとまた違った視点で読むことが出来ると思うので大切にしていきたいと思います。作者の酒井駒子さんの絵本は他にも素敵なものがたくさんあるのでぜひ読んでみてください!



## 『ひよこ』チョコフスキー作;岩本康之亮絵;宮川やすえ訳(ひさかたチャイルド)

大学看護学科 4年 宮内裕葵子

この本は、私が3歳の時に、母が買ってくれた絵本です。私は小さい頃からひよこが好きです。色、鳴き声、大きさ、全てがかわいいです。それで、この絵本が簡単な説明と、まず、かわいひよこができます。とても小さいひよこです。ひよこはお父さん、お母さんに大切に育てられています。ひよこは、自分かんででもできるぞ!と頑張っていました。好奇心旺盛で、色々なことに興味を持ちます。でも、かわい目があったり、失敗したりして、お父さんお母さんに助けをもらったり、自分の自信をなくしちゃったりします。そんなひよこが少しずつ成長していく姿を描いています。

私は、幼稚園、小学校の頃まで、この絵本を何度も読みました。その当時は、「でっかい猫こわい!でも助けが来た!よかった〜」「ころんじゃった!突かれてる!ひどいな〜」と思って読んでいたのですが、今22歳となって、もう一度読み返してみると、何だか、自分の今までの人生と重なってみえました。今まで色々なことがありました。でも、色々な困難、失敗を乗り越えて、ここまでこれたのは、必ず辛いですが、父や母をはじめとした周りの支えと、自分自身のがんばりがあったからなんだなと思ったんです。この本はひよこの成長と成長を描く、とてもシンプルな本だと思っていました。でも、読み手によって、本当に色々な解釈ができる絵本です。そして、何年経っても、色あせなくて、その時々読み手の気持ちにやさしく寄り添ってくれるような絵本です。みなさんの中にも、そういう本があるかもしれませんね。

## 『ないたあかおに』はまだひろすけぶん;いけだたつおえ(偕成社)

大学臨床心理学科 1年 新保美里

皆さん、鬼は怖いですか?

よく小さい子が悪いことをすると鬼が来るぞと言って脅してしまおうという話を耳にします。なので、私たちは鬼は「怖いもの」「悪いもの」だと思ってしまうがちなのかもしれません。今日私が紹介するのは、とても優しい鬼たちのお話です。とても有名な作品なので、読んだことがある方もいらっしゃると思いますが、まずあらすじをご紹介します。どこかある山に優しい赤鬼が住んでいました。そして、赤鬼は村の人間たちと友達になりたいと思っていました。しかし、人間たちはなかなか信じてくれませんでした。そこへ友達の子がやってきました。赤鬼は、赤鬼の「人間と友達になりたい」という思いを叶えるために、自分が悪者になることを提案します。その提案通りに、悪者のふりをして、村で暴暴をした赤鬼。そして、赤鬼を追い出した赤鬼。赤鬼は何もしていないのですが、人間たちには赤鬼が赤鬼を遠ざけてくれたように見えたのです。人間たちは赤鬼をいい鬼だと思いはじめます。そして、赤鬼は村の人間たちと仲良しなれたのです。

村の人間たちから「悪い鬼」と言われた赤鬼ですが、赤鬼にとっては「いい鬼」「優しい鬼」です。もしかしら、自分が苦手なだと思っている人も、ただ私がその人の一部分しか知らないからかもしれません。

皆さんも、たくさん友達がいらない、作りたいと思う時があるかと思いますが、でも、まずは、今の友達に目を向けることも大切なのだと思いました。

優しい鬼たちの友情の話をぜひ読んでみてください!



## 『おっきょちゃんとかっぱ』長谷川撰子文;降矢奈々絵(福音館書店)

図書館 課長 高野聡

この絵本はおっきょちゃん(おきょちゃん)が川で遊んでいると河童のガータロに河童の世界のお祭りに来ないかと誘われるところから始まります。ガータロと一緒に川の中に入り、お祭りでは河童のもちを食べたおっきょちゃんは、おとうさん、おかあさんのことも人間の世界のことまで忘れてしまい、河童とガータロの家族と一緒に暮らすことになりました。ある日、おっきょちゃんは河童達と遊んでいるときに水面を渡る人形を見つけます。それはおっきょちゃんのおかあさんが作ってくれた人形で、それをきっかけに人間世界のことを思い出します。

私は、この絵本の異界に入り込んでしまう怖さがしっかりと描かれているところに惹かれました。同じ作者の異界に迷い込んでしまう有名な話「めつからもつららおんどん」ではあそんでいるうちに寂しくなって「おかあさん」と声を出すことによって人間の世界たやすく戻ってしまいますが、おっきょちゃんは一歩間違えれば異界から戻れなかったかもしれません。その怖さがあるおっきょちゃんの話が深くつわり、また人間世界に戻れた時の喜びも倍増されていると思います。その作者の意図は、人形を見ても直ぐ思い出さず、3日経たせぬようにして人形を見つめて、4日目に思い出さずという設定にも表れているように思います。

最後はおっきょちゃんは人間の世界に帰れるのですが、やはり簡単には帰れません。おっきょちゃんが人間世界に戻るとは、もちろんガータロが一肌脱くわけですが...ガータロとの別れのシーンを描いた降矢奈々さんの絵は必見です!

## 県立図書館でのピブリオバトルに参加した際の感想

大学看護学科 4年 稲葉有紀

初めてピブリオバトルを見ました。本の紹介をしている皆さんを見て本がとても好きだということが分かりました。また、どのように話せば相手に伝わるのか、興味を持ってもらえるのか勉強になりました。楽しかったです。ありがとうございました。

